

# 第10回新鋭評論賞

準賞

俳句における取り合わせと

意味ネットワーク

庄田 宏文



句	され	なが	「ほ	る	り	距	欠	感	い	が	い	取	な	と	い	が	に	俳	立
会	れる	り	ど	。	合	離	く	じ	を	あ	て	り	い	し	る	対	俳	句	体
に	お	り	よ	で	わ	感	結	る	く	ま	は	り	な	し	だ	し	句	独	的
お	い	り	い	な	せ	が	果	こ	結	り	、	合	い	て	だけ	が	句	特	で
い	て	り	」	い	、	、	と	と	果	と	、	わ	取	な	が	り	句	の	深
、	、	と	距	、	成	読	と	な	果	と	、	、	り	い	だ	が	句	手	み
多	ろ	す	離	、	功	者	な	る	難	難	、	、	り	て	は	け	強	句	の
く	う	る	感	、	さ	に	。	。	し	し	、	、	、	か	、	の	す	句	法
の	か	と	は	、	離	に	と	す	、	、	、	、	、	に	、	ま	ぎ	句	で
選	。人	、	何	、	離	と	つ	わ	季	季	、	、	、	か	、	た	、	片	ある
者	口	、	を	、	不	即	て	ち	語	語	、	、	、	け	、	く	と	方	世界
の	に	、	も	、	離	重	、	一	に	と	、	、	、	離	、	た	、	事	を見
評	人	、	も	、	即	要	、	旬	対	と	、	、	、	れ	、	く	、	物	る
価	口	、	つ	、	離	重	、	一	に	し	、	、	、	て	、	く	、	と	と
を	に	、	つ	、	不	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	え
受	膾	、	も	、	離	重	、	一	に	し	、	、	、	て	、	た	、	と	る
け	炙	、	つ	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	意	。逆
た	さ	、	つ	、	離	重	、	一	に	し	、	、	、	て	、	た	、	味	に
句	れ	、	て	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	上	、
句	れ	、	可	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	れ	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	と	き
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	る
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	つ	な
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	の	季
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	物	語
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	と	き
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	る
句	け	、	つ	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	つ	な
句	け	、	と	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い	、	ま	、	の	季
句	け	、	判	、	離	重	、	旬	対	し	、	、	、	て	、	た	、	物	語
句	け	、	な	、	即	要	、	旬	対	し	、	、	、	い					

菊	「	清	と	い	菊	1.	い	さ	紹	シ	ろ	句	句	よ	に
を	奈	淨	思	る	の	ヒ	。	せ	介	ス	う	と	に	い	つ
仏	良	な	い	取	香	ト	。	る	し	テ	か	し	つ	い	い
像	の	空	浮	り	や	の	。	ヒ	、	ム	。本	と	つ	と	つ
に	古	氣	か	合	奈	判	。	ト	そ	に	稿	し	て	い	は
手	い	で	ぶ	わ	良	斷	。	の	の	つ	で	成	成	つ	、
向	仏	あ	印	せ	に	シ	。	。	う	い	は	立	立	ど	と
け	像	る	象	の	は	ス	。	。	え	て	、	、	て	う	れ
る	群	。	は	句	古	テ	。	。	で	、	ヒ	い	ど	い	ら
こ	「	掲	、	句	典	ム	。	。	取	行	ト	る	た	う	れ
と	が	句	重	の	的	と	。	。	り	動	に	、	判	、	が
も	取	で	陽	頃	な	取	。	。	合	經	お	と	断	た	、
多	り	は	の	の	代	り	。	。	わ	濟	け	み	基	た	と
い	合	、	菊	古	表	合	。	。	の	学	な	な	準	と	考
の	わ	一	の	都	例	わ	。	。	句	經	し	し	を	も	え
で	さ	讀	古	奈	と	せ	。	。	を	濟	け	て	記	も	わ
、	れ	し	都	良	さ	の	。	。	の	學	な	て	憶	つ	せ
必	て	、	奈	。	れ	佛	。	。	句	知	い	いる	と	つ	の
ず	い	い	良	。	ば	句	。	。	を	見	る	の	判	て	わ
し	る	と	の	。	つ	。	。	。	成	を	記	で	断	一	せ

と	し	ま	こ	取	さ	て	う	特	か	ら	的	の	は	氣	を	「	こ	同	も
き	て	た	こ	り	れ	、	に	に	た	の	で	仏	巨	の	離	菊	の	じ	意
に	み	そ	ま	合	た	古	菊	特	ち	鑑	的	像	大	印	れ	」	句	同	味
、	た	の	で	わ	一	仏	の	に	抽	賞	で	群	な	象	れ	菊	か	じ	的
理	が	意	、	せ	句	群	香	に	出	貰	あ	可	佛	象	て	」	の	じ	に
屈	、	味	に	の	一	鎮	漂	、	さ	賞	つ	能	像	を	「	季	か	秋	全
で	私	効	、	効	句	ま	う	感	言	可	た	工	群	は	離	菊	ら	感	く
も	た	果	に	果	で	鎮	古	、	わ	能	り	芸	佛	巨	れ	」	語	じ	離
つ	ち	は	つ	は	あ	ま	都	漂	れ	で	的	的	像	大	れ	香	は	ら	れ
て	は	、	い	て	る	ま	の	う	じ	あ	で	工	像	な	れ	」	香	れ	れ
感	、	揭	理	須	が	っ	古	の	ら	み	る	艺	佛	大	れ	と	感	じ	て
動	、	句	屈	で	、	て	都	清	れ	れ	と	的	像	人	よ	し	傷	じ	い
す			を	で	、	そ	の	净	の	ば	思	工	佛	間	り	た	に	や	る
る			を	つ	、	の	印	净	で	、	わ	艺	像	人	よ	と	感	じ	わ
わ			ば	つ	、	そ	象	净	あ	と	れ	的	佛	間	り	こ	に	や	け
け			つ	つ	、	そ	を	净	る	ば	る	艺	像	大	り	ろ	に	じ	で
で			と	い	、	の	印	净	の	、	わ	的	佛	人	き	と	至	は	は
は			と	て	、	そ	象	净	で	、	れ	艺	像	間	さ	こ	ら	な	な
な			読	理	、	そ	を	净	あ	と	る	的	佛	の	程	ろ	が	特	な
く			ん	屈	、	の	語	净	き	ば	が	艺	像	大	き	と	至	に	い
			だ	を	、	そ	句	净	に	む	る	的	佛	人	さ	こ	ら	視	い
			賞	解	、	そ	を	净	の	の	が	艺	像	間	度	ろ	が	覚	が
			し	釈	、	そ	活	净	に	む	が	的	佛	の	程	と	ら	覚	、
				釋	、	そ	写	净	ま	の	が	艺	像	大	き	と	な	覚	



シ	ム	力	発	づ	判	ば	判	の	も	す	が	車	経	料	屈	に	か	え
ス	1	や	動	い	断	間	断	部	高	る	、	の	驗	か	で	よ	留	ば
テ	は	思	さ	て	基	違	が	分	度	。	安	運	的	ら	屈	り	ま	、
ム	常	考	せ	て	準	う	毎	が	な	定	転	車	的	素	で	素	ま	物
2	時	の	熟	。	は	こ	回	担	判	し	は	の	な	早	は	な	く	陰
が	オ	コ	慮	。	よ	と	下	わ	断	て	ほ	運	も	く	直	は	く	で
動	ン	ス	の	う	り	が	せ	れ	も	正	ぼ	転	の	決	感	に	、	何
き	に	ト	う	。	論	あ	る	い	練	確	シ	は	も	断	断	に	か	か
出	な	が	え	。	理	る	わ	て	に	な	ス	シ	の	を	を	よ	つ	が
す	つ	か	か	。	的	。	け	い	よ	判	テ	テ	も	材	導	れ	い	動
前	て	い	判	。	か	か	で	が	と	断	ム	ム	と	料	く	た	て	い
に	素	思	断	。	合	つ	一	、	シ	を	1	1	と	と	こ	め	は	た
素	早	考	を	。	理	合	方	、	ス	下	で	で	す	と	と	と	、	と
早	い	考	下	。	的	理	で	、	テ	す	制	制	に	る	が	限	。	き
判	判	考	の	。	な	的	は	、	ム	御	御	御	は	、	で	ら	。	逃
断	を	考	し	。	思	思	な	、	1	さ	さ	さ	れ	例	き	れ	た	げ
下	さ	考	ま	。	考	考	い	、	テ	た	た	た	、	え	た	た	。	る
し	れ	れ	う	。	自	合	た	、	2	め	め	め	よ	た	め	た	。	べ
	て	て	。	覚	理	理	め	、	テ	し	し	し	つ	ば	た	た	。	き
	り	り	。	的	な	な	め	、	ム	合	も	も	て	ば	た	た	。	き
	、	、	。	に	思	考	た	、	テ	理	合	理	要	い	た	た	。	き
	テ	ス	テ	。	考	考	ば	、	ム	的	的	的	る	ば	た	た	。	き
	中	集	中	。	に	に	し	、	テ	な	な	な	ば	た	た	た	。	き

し	ま	一	基	一	の	の	う	用	必	シ	な	た
て	さ	読	準	方	を	を	な	し	要	ス	判	が
い	に	し	は	一	返	作	な	が	が	テ	断	る
る	シ	た	よ	で	し	る	う	ヒ	が	テ	は	性
.	ス	時	り	は	、	場	な	ト	が	ム	シ	質
言	テ	に	合	、	、	面	る	の	ち	ス	ス	が
い	ム	、	理	「	と	で	が	ト	が	テ	テ	ある
換	1	ば	的	、「	、「	は	、	の	ち	ム	ム	と
え	に	つ	、	遅	、「	、	な	の	で	ス	2	さ
る	よ	と	論	り	、「	、「	る	で	で	テ	を	れ
と	る	感	理	り	思	返	が	で	で	ム	2	と
、	「	じ	的	て	考	し	、	で	で	ス	の	さ
取	速	印	な	き	、「	に	、「	で	で	テ	承	れ
り	い	象	も	た	思	よ	速	で	で	ム	認	て
合	思	や	の	、	考	う	い	が	で	は	に	いる
わ	考	感	想	、	合	に	思	、	で	、	ゆ	。
せ	一	想	の	、	わ	よ	考	、「	で	、	だ	ま
を	が	は	句	、	せ	り	考	、「	で	、	ね	た
活	機	は	句	、	の	で	考	、「	で	、	ら	最
用	能	、	を	、	の	き	考	、「	で	、	れ	終

し	た	俳	句	の	可	否	を	判	断	す	る	に	あ	た	り	、	季	語	と
る	こ	と	の	ひ	と	つ	の	傍	証	と	考	え	う	る	。	で	は	、	な
る	か	ど	う	か	が	シ	ス	テ	ム	1	に	よ	る	直	感	的	は	理	屈
評	価	さ	れ	印	象	の	は	テ	ム	1	に	よ	る	多	数	の	理	屈	的
と	と	読	ん	だ	印	象	「	シ	ス	テ	ム	1	に	よ	る	と	や	理	屈
る	。.	取	り	合	わ	せ	の	テ	ム	1	に	よ	る	例	定	さ	は	理	屈
て	磨	か	れ	た	シ	ス	テ	ム	1	に	よ	る	直	感	的	な	と	や	理
光	る	句	を	拾	う	こ	と	シ	ス	テ	ム	1	に	よ	る	と	は	理	屈
い	て	も	、	例	え	ば	こ	と	ム	1	に	よ	る	多	数	の	と	や	理
る	こ	と	が	想	定	さ	れ	ム	1	に	よ	る	直	感	的	な	は	理	屈
テ	ム	1	に	よ	る	直	感	的	な	判	断	が	重	き	き	を	は	理	屈
り	合	わ	せ	の	句	の	作	句	、	鑑	賞	に	つ	い	て	は	、	理	屈
飛	躍	に	あ	る	と	す	る	と	、	シ	テ	ム	2	に	よ	つ	て	理	屈
取	り	合	わ	せ	の	句	の	妙	味	は	理	屈	2	に	よ	つ	て	理	屈
を	、	「	速	い	思	考	」	が	判	断	し	て	い	る	と	言	え	理	屈
い	か	た	ち	で	の	必	然	的	な	響	き	あ	い	が	あ	る	か	否	理
も	う	片	方	の	事	物	に	、	理	屈	的	な	つ	な	が	り	で	は	理
し	た	俳	句	の	可	否	を	判	断	す	る	に	あ	た	り	、	季	語	と

り	合	わ	せ	の	句	を	シ	ス	テ	ム	1	の	判	断	の	根	拠	が	合	理	的	・	論	理	的	な																																																																																																																																																																																																																					
に	潜	ん	で	い	る	と	い	つ	た	鈍	重	、	か	つ	忍	耐	強	く	芯	」	が	す	ん	ぐ	り	と	し	た	体	躯	で	、	じ	つ	と	動	か	か	ず	「	蜍	」	が	す	ん	ぐ	り	と	し	た	味	的	な	つ	な	が	り	は	希	薄	で	あ	る	。	一	方	で	、	「	蟾	蜍	」	と	「	長	子	」	が	取	り	合	わ	さ	れ	て	い	る	。	揭	句	で	は	、	「	蟾	蜍	」	と	「	長	子	」	が	取	り	合	わ	さ	れ	て	い	る	。	草	田	男	の	代	表	句	で	あ	り	、	象	徵	性	の	高	い	句	と	に	あ	る	こ	と	の	重	み	や	、	日	本	的	な	因	習	の	重	み	が	し	て	評	価	さ	れ	て	い	る	。	中	村	草	田	男	家	去	る	由	も	な	し	中	村	草	田	男	蟾	蜍	長	子	家	去	る	由	も	な	し	ク	2.	潛	在	記	憶	、	普	ラ	イ	ム	記	憶	と	意	味	ネ	ツ	ト	ワ	ー	る	の	で	あ	ろ	う	か	。	シ	ス	テ	ム	1	の	判	断	の	根	拠	が	合	理	的	・	論	理	的	な

意	の	通	つ	た	ぶ	れ	な	い	強	さ	を	持	つ	と	い	つ	た	イ	メ
味	え	「	速	い	思	考	に	よ	る	感	興	が	に	よ	る	感	興	は	ジ
的	ら	れ	れ	る	思	考	よ	よ	る	感	興	が	よ	よ	る	感	興	は	は
に	。こ	れ	れ	る	考	」の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	い	家
直	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	長	長
接	の	れ	れ	る	考	」の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	制	制
の	れ	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	度	度	度
関	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	中	中	中
連	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	で	一	一
が	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	長	長	長
な	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	子	子	子
い	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	の	の	の
二	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	、	課	課
つ	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	せ	せ	せ
の	れ	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	ら	離	離
事	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	と	と	と
物	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	も	も	も
に	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	と	れ	れ
つ	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	た	た	た
な	の	れ	れ	る	考	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	宿	宿	宿

る	の	そ	な	や	つ	例	る	記	憶	に	れ	い	仕	連	う	が
こ	よ	の	も	事	た	と	か	憶	の	分	、	る	組	性	ち	り
と	う	保	の	実	、	し	、	憶	分	か	こ	。)	み	の	に	を
は	な	持	が	記	個	し	と	の	類	か	の		が	判	行	感
な	記	に	舉	憶	人	て	は	に	に	れ	、		大	連	わ	じ
い	憶	自	げ	憶	的	て	、	き	分	れ	こ		い	性	れ	取
も	を	覚	ら	記	な	は	、	る	類	れ	ト		み	の	て	る
の	言	的	れ	憶	經	は	エ	か	に	か	の		が	判	わ	じ
、	語	で	。	記	驗	、	ピ	、	で	と	記		大	性	れ	取
潜	な	は	一	記	の	そ	ソ	ま	違	さ	憶		い	の	に	れ
在	も	な	方	憶	記	の	ー	た	い	れ	憶		長	性	に	れ
的	も	く	で	憶	憶	記	ド	、	が	記	憶		期	の	に	れ
に	の	、	、	憶	や	憶	記	、	あ	憶	憶		記	の	に	れ
ヒ	判	、	、	憶	や	憶	憶	、	る	憶	憶		憶	記	に	れ
ト	斷	、	、	憶	、	意	憶	、	。	憶	憶		憶	憶	に	れ
の	め	、	、	記	、	味	記	、	。	頭	憶		2	性	に	れ
判	め	、	、	記	、	記	記	、	。	在	憶		種	の	に	れ
断	て	、	、	記	、	記	記	、	。	記	憶		類	記	に	れ
に	想	、	、	憶	、	意	記	、	。	起	憶		記	記	に	れ
	起	、	、	憶	、	味	記	、	。	想	憶		記	記	に	れ
	に	て	、	記	、	記	記	、	。	想	憶		記	記	に	れ
	す	こ	、	記	、	記	記	、	。	記	憶		記	記	に	れ
				的	、	識	記	、	。	葉	葉		記	記	に	れ

物	そ	組	ワ	を	は	に	背	の	出	受	が	す	こ	が	に	近	果	い	影
同	の	み	ー	綱	、	関	景	の	て	け	日	る	の	よ	で	見	が	い	響
士	意	な	ク	の	も	与	と	作	い	取	々	場	普	り	よ	た	が	る	響
は	味	つ	ー	目	の	し	し	用	る	る	、	合	ラ	、	よ	も	げ	。)	響
よ	ネ	て	と	記	、	て	、	で	等	取	コ	が	イ	り	よ	の	げ	。	響
り	ツ	い	し	憶	の	い	ヒ	用	の	る	マ	あ	ミ	、	よ	こ	ら	げ	。
近	ト	る	結	す	な	と	ト	象	現	と	ー	る	ン	グ	ち	れ	れ	ら	。
接	ー	と	び	る	ネ	考	の	は	象	で	シ	か	イ	効	に	ら	の	ら	。
し	ク	い	付	と	ツ	え	脳	の	は	、	ヤ	ら	ン	果	影	ら	の	ら	。
て	で	う	け	い	ト	ら	記	の	の	そ	ル	ー	グ	果	響	ら	の	ら	。
配	は	説	け	記	ワ	き	記	の	後	の	な	シ	効	す	影	れ	の	ら	。
置	、	が	け	憶	ー	、	憶	の	の	購	だ	ヤ	果	る	響	れ	の	ら	。
さ	関	提	け	す	ク	、	関	仕	の	買	な	ル	は	、	影	れ	の	ら	。
れ	連	唱	け	る	ー	連	連	組	の	行	ど	な	、	年	効	れ	の	ら	。
る	性	さ	け	と	へ	意	意	仕	記	動	の	ど	の	余	果	れ	の	ら	。
。	の	れ	れ	と	味	味	連	組	憶	行	情	の	情	に	で	は	の	ら	。
ま	た	れ	て	い	ネ	あ	意	仕	憶	動	報	だ	報	に	あ	は	の	ら	。
た	、	い	い	う	ツ	う	味	物	成	に	を	た	私	、	る	は	の	ら	。
意	事	る	仕	ト	ト	事	の	接	立	影	無	た	た	り	た	は	の	ら	。

な	味	よ	や	葉	離	比	色	び	ど	「	ら	色	が	葉	あ	味
ネ	ネ	り	離	を	は	較	「	つ	と	散	れ	「	あ	に	る	ネ
ツ	ツ	、	れ	經	近	す	桜	き	い	散	れ	花	あ	関	と	ツ
ト	ト	昨	て	由	く	る	」	が	つ	散	れ	見	る	して	と	ト
ワ	ワ	今	い	す	く	も	「	が	た	」	と	葉	言	葉	さ	ワ
ー	ー	の	る	る	、	の	桜	な	言	」	い	葉	葉	と	れ	ー
ク	ク	桜	と	つ	後	者	と	な	葉	か	る	」	」	して	、	ク
ガ	上	に	い	な	者	は	前	が	に	ら	と	な	ど	意	、	上
形	に	関	え	が	、	は	者	つ	も	さ	考	な	は	味	味	の
成	紐	す	る	り	、	意	の	て	意	ら	え	ど	比	ネ	ツ	つ
さ	付	る	俳	で	味	間	の	い	味	さ	ら	ど	較	ト	ワ	な
れ	け	俳	句	あ	ネ	に	ほ	く	味	ら	れ	は	的	付	ー	が
る	ら	俳	や	り	テ	「	う	。	ネ	れ	れ	ま	近	け	ク	り
と	れ	句	詩	り	、	散	が	。.	ト	華	れ	た	い	い	ク	、
と	れ	句	ラ	、	そ	る	直	。	ワ	」	れ	、	位	置	上	と
も	れ	句	イ	ど	、	」	接	。	ト	」	ら	、	に	に	桜	の
に	い	句	ム	が	そ	な	的	。	ワ	吉	れ	、	紐	に	桜	の
、	き	句	ム	が	そ	ど	な	。	ト	野	れ	、	付	に	桜	の
意	新	句	ム	が	の	の	分	。	ワ	山	て	、	付	に	桜	の
味	た	句	ム	が	距	他	な	。	ト	」	い	、	け	に	桜	の
				は	離	の	ど	。	ワ	」	る	、	け	に	桜	の
				は	離	距	の	。	ト	」	が	、	け	に	桜	の
				や	離	他	距	。	ワ	」	が	、	け	に	桜	の
				や	離	の	感	。	ト	」	が	、	け	に	桜	の
				言	付	距	を	。	ワ	」	が	、	け	に	桜	の

て	い	る	。	取	り	合	わ	せ	の	佛	句	の	、	二	つ	の	事	象	の
い	る	た	め	、	潜	在	記	憶	の	影	響	は	受	け	な	い	と	さ	れ
に	顕	在	記	憶	を	活	用	し	、	言	語	化	さ	れ	た	記	憶	を	用
断	を	行	つ	て	い	る	。	一	で	は	、	自	分	の	意	思	考	」	で
意	識	の	う	ち	に	潜	在	記	憶	の	影	響	は	受	け	な	い	と	さ
い	思	考	」	で	は	、	自	分	の	意	思	考	」	で	は	、	意	識	的
記	憶	が	用	い	ら	れ	て	い	る	点	を	指	摘	で	き	る	。	「	速
に	よ	る	判	断	を	行	う	材	料	と	し	て	、	前	項	で	述	べ	た
重	要	な	点	と	し	て	、	材	料	と	し	て	、	前	項	で	述	べ	た
に	よ	る	判	断	を	行	う	材	料	と	し	て	、	前	項	で	述	べ	た
は	結	び	つ	い	て	い	な	い	。	事	物	ほ	ど	結	び	つ	き	が	遠
連	性	が	低	い	事	物	ほ	ど	結	び	つ	き	が	遠	い	か	、	ま	た
の	意	味	ネ	ツ	ト	ワ	ー	ク	上	の	結	び	つ	き	も	近	く	、	関
人	に	と	つ	て	は	意	味	ネ	ツ	ト	ワ	ー	ク	上	で	紐	つ	い	て
「	桜	」	と	の	距	離	は	相	当	離	れ	て	い	る	か	、	普	通	の
う	こ	と	は	な	く	、	例	え	ば	「	鯰	」	や	「	冥	王	星	」	は
方	で	、	當	然	の	こ	と	な	が	ら	す	べ	て	の	言	葉	や	概	念
ニ	ツ	ト	ワ	ー	ク	全	体	の	構	造	も	變	容	し	て	い	く	。	一

て	と	で	の	を	意	の	危	る	ク	低	と	は	の	え	在	た	る	組
は	、	あ	句	味	味	事	ぶ	に	上	い	い	、	事	ら	記	。	み	
な	も	る	に	ネ	テ	物	ま	は	、	ま	う	容	象	れ	憶	こ	合	
ら	う	こ	お	ツ	ト	の	れ	遠	、	つ	判	易	の	て	に	の	わ	
ず	一	と	け	ワ	ト	「	不	す	ま	た	断	に	距	い	お	。シ	み	
、	つ	が	る	ー	ー	離	離	ぎ	、	く	と	想	離	れ	記	の	合	
ま	の	一	、	ク	ク	不	即	る	、	連	な	起	が	て	憶	シ	わ	
た	事	般	、	上	上	離	即	場	、	連	り	さ	ま	い	に	の	せ	
季	物	的	と	の	の	即	「	合	、	が	、	れ	り	る	ス	可	の	
語	は	で	考	、	、	」	の	わ	、	な	、	れ	め	ト	ス	否	せ	
が	、	あ	え	、	、「	の	状	せ	、	い	、	た	に	ワ	ト	し	の	
動	「	る	ら	、「	ほ	態	態	の	、	か	、	め	接	ー	ワ	い	つ	
い	不	。	れ	、「	ど	と	と	句	、	、	、	付	し	ク	ー	て	い	
て	離	。	よ	ほ	よ	は	は	句	、	、	、	き	て	ク	ク	点	、	
は	不	。	。	ど	ど	、	、	に	、	、	、	す	い	上	ク	シ	ス	
い	即	。	。	よ	よ	、	、	と	、	、	、	ぎ	る	の	ク	テ	ム	
け	「	と	取	、「	い	、	、	し	、「	、「	、	、「	て	、	ク	が	重	
な	き	き	り	、「	一	、	、	て	、「	、「	、	、「	い	、	ク	と	要	
い	方	片	合	、「	距	、	、	成	、「	、「	、	、「	つ	、	ク	は	指	
い	季	方	わ	、「	離	、	、	立	、「	、「	、	、「	た	、	ク	と	摘	
と	語	語	せ	感	感	、	、	が	、「	、「	、	、「	る	、	ク	、	に	

ク	ワ	る	ち	は	る	ツ	に	も	の	れ	共	一	あ	て	歴	じ	中	さ
の	ー	。	ら	、	。	ト	お	い	意	ば	有	ク	る	い	史	め	心	れ
辺	ク	こ	も	常	と	ワ	け	え	味	、	さ	は	に	い	的	と	と	て
縁	が	の	あ	識	は	ー	る	る	ネ	俳	れ	ー	し	る	蓄	じ	し	い
に	、	よ	る	的	い	ク	、	で	ト	句	共	ク	る	い	積	め	た	る
つ	季	う	程	な	え	は	も	あ	ワ	の	有	は	に	で	な	ど	た	。
な	語	な	度	記	、	個	う	ろ	ー	初	さ	ー	し	で	ど	を	過	。
が	を	も	は	憶	、	人	も	う	ク	学	れ	て	て	あ	る	だ	去	。
る	中	う	共	と	同	片	う	う	を	に	れ	い	も	も	う	た	の	。
く	心	片	有	し	じ	方	方	。	ク	學	て	い	の	、	う	め	例	。
ら	と	方	さ	て	社	の	事	。	を	に	も	る	も	、	。	の	經	。
い	し	の	れ	の	會	多	物	。	共	お	の	と	考	、	。	た	驗	。
の	た	事	て	一	で	様	性	。	有	け	け	考	え	ら	、	め	、	記
距	意	物	い	般	暮	性	が	。	す	る	勉	え	ら	れ	程	、	憶	。
離	味	の	る	性	ら	性	が	。	人	成	強	ら	れ	る	度	、	と	。
を	ネ	意	と	を	す	人	の	。	達	成	は	は	れ	へ	標	、	文	。
も	ツ	味	考	有	す	達	間	。	の	す	、	の	い	言	準	、	學	。
つ	ト	味	え	し	人	の	で	。	定	わ	、	の	換	い	化	、	的	。
て	ワ	ら	ら	、	達	達	で	。	さ	わ	、	の	え	き	さ	、	蓄	。
接	ー	ト	れ	こ	の	の	で	。	れ	の	、	季	て	か	積	、	成	。

語	は	考	判	性	の	と	屈	せ	衝	き	が	え	「	し
に	い	え	断	句	句	さ	上	の	擊	が	つ	ら	不	て
よ	け	ら	の	の	の	れ	の	句	の	、	な	れ	離	い
る	な	れ	根	可	句	て	関	の	正	取	が	る	不	る
意	い	る	拠	否	の	い	連	句	体	り	な	。あ	即	い
味	」	。	と	判	可	る	が	の	で	合	が	る	」で	る
ネ	と	。	ク	断	否	、	な	句	体	わ	な	い	あ	、
ツ	い	。	の	速	は	、	い	の	で	せ	が	い	る	と
ト	う	。	関	い	は	、	思	句	ある	の	つ	は	い	と
ワ	重	。	連	大	は	、	考	の	と	の	と	る	は	た
ー	要	。	が	い	、	潜	合	理	も	を	も	の	判	た
ク	な	。	大	に	在	在	わ	屈	考	読	だ	の	断	判
と	点	。	い	に	意	意	せ	的	え	ん	と	き	セ	の
、	に	、	寄	寄	識	識	の	、	ら	だ	き	の	ト	句
も	つ	季	与	与	に	に	句	、	と	と	の	新	ワ	に
う	い	語	し	し	お	お	の	意	直	る	。	鮮	ー	お
片	て	が	て	て	け	け	に	味	感	取	取	な	ク	け
方	も	動	い	る	る	る	お	的	的	り	り	の	同	る
の	、	い	て	意	意	い	け	、	な	合	。	氣	士	と
事	季	季	て	味	味	と	可	經	合	わ	。	づ	考	考

つ	く	の	も	さ	な	も	い	わ	と	の	一	人	人	げ	ら	な	物
ろ	詠	で	「秋	「印	の	の	る。	ち	、	旬	読	ご	み	て	れ	が	と
ふ	ま	ある。	の風	象	の	の	。ま	「匿	「人	で	し	み	に	考	よ	が	の
「	れ	た	。また	で	で	の	た	名	ご	あ	て	誰	か	察	う。	り	と
物	き	、	、	象	の	の	、	他	み	る。	、	笑	へ	す	。例	よ	の
思	た	歴	、	」	の	の	、	者	の	。伝	乾	る	秋	る。	し	と	関
ふ	史	史	、	意	」	の	、	の	見	統	い	秋	の	て	し	が	連
「	の	の	、	味	の	の	、	笑	知	的	た	風	の	考	う。	が	が
あ	歷	は	、	ネ	の	の	、	ひ	ら	な	印	へ	飛	察	。例	持	距
は	史	古	、	ツ	の	の	、	へ	ぬ	季	象	声	鳥	する。	と	ち	離
れ	の	ト	、	ト	の	の	、	声	人	語	を	」	田	と	し	が	持
」	語	く	よ	ワ	の	の	、	」	の	で	受	へ	蠟	合	わ	わ	ち
と	で	より	和	ー	ク	の	、	を	の	あ	け	锐	鳥	合	せ	根	拠
い	あ	り	歌	ー	に	の	、	取	は	れ	敏	敏	田	わ	の	合	わ
つ	る。	に	に	な	連	の	、	り	、	ば	な	な	蠟	蠟	の	合	わ
た	。	も	和	な	な	の	、	合	、	、	ど	感	無	無	秀	の	密
日	う	多	歌	る	る	の	、	わ	、	、	の	ひ	公	公	句	と	な
本	う	も	に	な	理	の	、	せ	、	、	の	、「	」	舉	を	考	え

その意味	に紐ついてもいる。	には、そのものでは使	意味	る。このよう	ものではなく、	エツトな「も	にあるのは、古	の孤獨感と古來の「秋	分と隔絶感、翻	様子が伺え	な感情でその笑	して、作者が感	クの中
ネツトワーク	「乾燥」といふた言葉が意	味の要素とされていな	味ネツ	のよに掲句では、	く、より現代的	トな「も」のあはれ	にのは、「秋の風」	の孤獨感と古來の「秋	つて人を読み取	が伺える。また、人ごみの中に入つたと	う修辞からは、	ところが、掲句の「人ごみに誰か笑へる」と	古來の感情も、「秋の風」の意味
上に紐つく物理的な性	句では、「秋の風」は	味としての「秋の風」	味ネツ	「秋の風」はそ	的な感傷の発露	トな「も」のあはれ	の風」の意味	の孤獨感と古來の「秋の風」の意味	る。この句	が伺える。また、人ごみの中に入つたと	う修辞からは、	ところが、掲句の「人ごみに誰か笑へる」と	古來の感情も、「秋の風」の意味
		「秋の風」は	味合	の「秋の風」	で、あ	トな「も」のあはれ	の意味	の孤獨感と古來の「秋の風」の意味	の句	が伺える。また、人ごみの中に入つたと	う修辞からは、	ところが、掲句の「人ごみに誰か笑へる」と	古來の感情も、「秋の風」の意味

一	に	か	の	く	の	が	ネ	な	風	季	を	よ	せ	ツ	が	感	質
ク	お	ど	つ	か	よ	取	ツ	ド	ー	語	考	う	の	ト	り	「	と
上	い	う	な	か	う	り	ト	ラ	と	は	え	な	句	ワ	う	孤	し
の	て	か	が	ど	に	合	イ	イ	い	動	る	な	と	ー	る	独	て
距	は	が	関	う	、	わ	ー	ナ	う	か	と	意	し	ワ	ト	感	の
離	、	與	与	に	、	せ	ク	感	季	な	、	味	て	ー	ク	一	冷
が	二	し	判	、	取	の	に	傷	語	い	、	ネ	成	ト	ワ	と	や
適	つ	し	斷	取	り	秀	変	が	の	か	、	ツ	功	ワ	ー	り	や
切	の	て	離	り	り	句	容	新	意	な	、	ト	し	ー	ク	か	さ
、	事	い	を	合	合	句	が	た	味	い	、	ワ	て	ク	上	さ	」を
か	象	る	持	わ	わ	た	誘	が	に	た	、	ー	い	上	の	經	
つ	の	と	ち	せ	せ	る	發	た	紐	ク	、	ク	る	の	の	由	
そ	間	言	な	の	の	所	発	に	ツ	き	、	ワ	と	緊	ワ	し	
の	の	え	な	意	の	以	さ	お	ト	ワ	、	ー	い	密	ー	た	
つ	の	る	が	味	句	で	れ	い	フ	ク	、	ク	え	な	つ	現	
な	の	。	ら	の	の	あ	れ	い	フ	ク	、	ワ	え	つ	代	的	
が	の	。	も	意	句	ろ	て	い	ト	ク	、	ー	る	な	つ	な	
が	可	と	緊	味	の	う	い	る	ワ	ク	、	ク	る	が	が	感	
り	否	ト	密	ネ	可	。	で	。	ー	語	、	ワ	。	と	り	覺	
が	判	ワ	密	ネ	否	。	あ	。	ー	が	、	ー	。	い	合	に	
緊	断		で	テ	判	。	る	。	ー	動	、	ー	。	う	わ	つ	

言葉	「威嚴」、「重厚」など	に紐付き、またそこから「鈍重」など	動きの鈍さなどを、いざらの項目はやや距離離をも	てつたがつていとみてよいだろう。また	ではないため、これらの項目はやや距離離をも	「児雷也」などへも紐ついでいるが、直接受けた	近くには紐ついでいる。「ガマの油」、「毒」、	クには、その姿から「いぼ」などは比較的	いれる。「『蟾蜍』と『長子』が取り合はれて	では、「蟾蜍」と「長子」が取り合はれて	考察をしたい。「蟾蜍長子家去る由もなし」	最後に、前出の草田男の掲句について改め	生成した衝撃によるものといたえられるであろう。	上の結節点を発見した驚き、または結節点が	かなかつた、「二つの事象の意味ネツトワーワーク	感興は、ひとつには、句を読むまでは、氣が付	きに、ぱつと即時的に引き起こされると感動、	されると密であるか否かが、「速い思考」により判断
へも	繫がつていく。	「抽象的な概念を表す」	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的		
繫がつていく。	「抽象的な概念を表す」	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的		
繫がつていく。	「抽象的な概念を表す」	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的	「抽象的」などは、直接的		

し	れ	挙	墓	性	ワ	感	ト	「	の	と	も	と	の
た	た	げ	だ	一	ー	動	ワ	速	意	し	の	い	意
現	作	同	だ	新	ー	が	ー	い	味	て	も	し	味
状	者	じ	れ	た	ク	動	ワ	速	ネ	の	と	て	ネ
に	に	ヒ	か	た	ク	が	ー	い	ツ	こ	の	し	ト
対	よ	ガ	物	に	が	生	ー	思	ト	こ	の	て	ト
す	る	工	い	變	ー	ま	ー	考	ワ	の	辺	の	ワ
る	、	ル	へ	容	ク	れ	ー	え	ー	こ	り	。こ	ー
悲	言	の	か	紐	く	る	ー	え	ー	の	に	に	イ
痛	論	句	ぎ	つ	こ	の	ー	ら	ー	は	お	お	ク
な	が	と	り	に	と	で	ー	れ	ー	、	い	い	は
感	抑	し	と	紐	く	あ	ー	る	ー	こ	て	、	「
情	压	て	し	づ	こ	る	ー	を	ー	の	、	、「	家
の	さ	、	て	加	と	。そ	ー	ク	ー	二	、「	と	長
發	れ	ヒ	、	藤	な	し	ー	に	ー	つ	「	と	制
露	て	ガ	、	榎	る	、そ	ー	思	ー	の	、	、「	、
が	い	エ	、	郵	る	の	ー	象	ー	事	、「	と	「
感	る	ル	に	榎	に	で	ー	の	ー	象	接	が	家
じ	か	仮	に	郵	あ	あ	ー	の	ー	の	点	み	長
ら	屈	託	の	郵	る	る	ー	意	ー	の	が	ら	を
	が	掲	掲	邮	。	。	ー	味	ー	意	に	れ	繼
	さ	句	句	邮			ー	ネ	ー	味	時	る	ぐ
	が						ー	ツ	ー	ネ	に		
							ー	ト	ー	ツ			

指	論	察	る	断	は	よ	状	命	ト	記	あ	り	は	い	し	れ
摘	理	し	「速	す	拓	う	況	「忍	ワ	憶	つ	俳	、	る	」	る。
し	や	、	い	る	大	に	の	「耐	ー	の	た	人	す	た	」	。草
た	理	そ	思	に	し	、	中	耐	ク	な	と	の	で	め	は	田
。	屈	の	考	あ	変	秀	で	「	に	か	考	記	に	た	」	昭
ま	で	判	」	た	容	句	作	と	、	か	え	憶	草	め	」	和
た	説	断	が	り	し	に	ら	い	、	に	ら	の	田	、	」	六
、	明	は	必	、	て	よ	れ	う	、	、	れ	な	男	が	」	年
そ	さ	ず	強	ヒ	取	り	た	意	、	、	れ	か	草	掲	」	刊
の	れ	れ	く	ト	り	合	句	味	、	、	る	に	田	句	」	行
判	も	し	関	の	合	わ	季	が	、	、	。	収	男	は	」	」
断	の	も	与	判	わ	せ	語	紐	、	、	。	め	の	、	」	『
根	で	も	し	断	の	の	の	付	、	、	。	ら	わ	、	』	『
拠	で	も	合	シ	句	様	意	け	、	、	。	れ	ち	、	』	』
と	は	な	理	ス	の	子	味	け	、	、	。	れ	、	、	』	』
し	な	い	的	テ	成	が	味	付	、	、	。	る	、	、	』	』
て	な	い	理	ム	否	見	ネ	け	、	、	。	、	、	、	』	』
、	こ	こ	的	に	を	て	テ	ら	、	、	。	、	、	、	』	』
ヒ	と	と	理	お	と	取	ト	れ	、	、	。	、	、	、	』	』
ト	を	く	的	け	を	れ	ワ	よ	、	、	。	、	、	、	』	』
		、	考			う	ク		、	、	。	、	、	、	』	』

ム	あ	の	季	持	そ	象	あ	と	心	一	取	い	味	察	い	わ	離	の
効	る	句	語	つ	の	そ	る	つ	と	つ	り	う	ネ	し	つ	ち	が	潜
果	。	と	は	の	辺	ぞ	。季	て	し	の	り	合	ネ	た	た	二	程	在
に	そ	し	動	だ	縁	ぞ	語	は	し	理	わ	衝	ツ	し	た	つ	よ	記
よ	し	て	か	と	部	れ	、	、	た	意	せ	擊	ト	た	。	二	い	憶
り	て	理	屈	驚	分	に	紐	、	た	味	の	が	ワ	し	た	距	な	に
季	、	屈	必	き	に	於	つ	取	で	由	、	、	ー	し	。	離	が	お
語	取	を	然	を	い	て	紐	度	あ	で	す	、	ク	て	、	感	程	け
の	り	超	性	も	い	て	程	ま	る	ある	な	、	同	、	、	の	よ	記
意	合	え	性	つ	た	實	度	で	こ	こと	わ	な	士	語	、	象	い	憶
味	わ	た	を	つ	意	は	、	ま	と	を	ち	、	ー	と	も	間	な	に
ネ	せ	感	持	て	味	は	、	で	合	ある	わ	、	ク	語	も	が	が	お
ツ	の	動	ち	て	付	は	、	ま	わ	わ	さ	、	ー	語	う	不	ら	け
ト	秀	が	、	意	く	繁	、	た	合	され	れ	、	ク	語	片	離	れ	け
ワ	句	ま	、	味	付	密	、	た	わ	た	化	、	ー	語	方	不	離	け
ー	は	た	、	付	く	な	、	で	た	も	さ	、	ー	語	の	即	れ	け
ク	、	感	持	て	こ	な	、	ま	と	も	れ	、	ー	語	事	不	離	け
を	普	が	、	意	と	つ	、	た	片	も	た	、	ー	語	象	即	れ	け
広	ラ	る	、	付	に	な	、	で	方	も	た	、	ー	語	の	離	れ	け
げ	イ	の	、	合	よ	が	、	せ	の	も	も	、	ー	語	意	離	れ	け

るこことで、俳句表現の新たな可能性を開くことになる。日々、多くの俳人により新たな取り合わせの句を生み出す試みがなされている。その試みが成功し、季語の意味ネットワークの中に定着することで、季語の意味ネットワークはころう。現代の俳人が、新たな取り合わせの俳句を生み出す試みは、季語の意味ネットワークの辺縁を探る作業と言い換えることもで

きよう。

ダニエル・カーネマン「ファースト＆スロウ」

参考文献

ー」早川書房(2011) (原著 Daniel Kahneman. Thinking, Fast and Slow)

中村草田男 「長子」(1931年)